

High End Mässan 2017 見学レポート

パナソニック(株) アプライアンス社 ホームエンターテインメント事業部

井谷 哲也

ストックホルムにて、2月18/19日に開催された High End Mässan 2017 Stockholm (HEM) を見学したので報告する。

HEM は日本ではほとんど知られていないが、ストックホルムで毎年開催されるオーディオショーで、国内で言うところの“サウンドセッション大阪”くらいの規模。H.P.の過去履歴を見ると2011年以降のデータがあるが、何時頃から開催されているのか、来客数など詳細は不明。Technicsは昨年に続き2回目の参加であるが、現地スタッフの話だと昨年の来場者数が2日で約4000人、今年は少々少なめだったとか。

開催地はストックホルム中央駅そばの立地のいい場所だが、周囲にキャパの大きなホテルが無く、Sheraton ホテルを中心に徒歩10分程度の範囲で3会場に別れて開催されている。(それも“サウンドセッション大阪”に似ている。)

メーカーが構えるブースは少なく、地元のディストリビュータやディーラーで総計約50社が参加。それぞれが扱っているブランドの商品を展示している模様。従って、ブース名を見ても、ピンと来ない名前が多く、パンフレットから読める有名メーカーブースは、naim、Devialet、Wilson、Sennheiser、Stax、Dynaudio、Hegel など。展示メーカーに極端なダブリは無いので業界内で調整しているのかもしれない。欧州のオーディオショーでは常連のドイツや英国の大手が意外と少なく、デンマーク、スウェーデンなど地元北欧のメーカーが多いのが特徴。ちなみにTechnics以外の日系メーカーではaudio-technica、FURUTECH、SoulNote等の展示があった。



ショーへの入場は有料で、土日の2DAYチケットで200kr (スウェーデンクローナ：日本だと¥2,500くらいの感覚か)、日曜のみで150krと結構高額。私は18日(土)11時頃会場着したが既にかなりの熱気で、どのブースも満員で立ち見も。客層が特徴的で、30-40代の比較的若い層が多く、国内展示会ほど高齢な方の割合は高くない。またミュンヘンと異なって女性や子供連れは少ない。

会場点描

メインとなる Sheraton ホテルの様子。グランドフロアの1部と、2階の会議室を使って各ブースが開設されており、また会議室前のオープンスペースを使って、一部メーカーの展示とディスクや雑誌の販売コーナーがある。



ここでもアナログレコードは人気の模様であり、どここの展示会でも見られるように中古レコード屋さんでは所謂“エサ箱”をつつくマニアの方を多く見かけた。



会場は Sheraton の他に隣のビルにある Coor Konference というイベントホールの2フロア、更に徒歩で10分程、ストックホルム中央駅の反対側に位置する Lundqvist&Lindqvist というイベントホールの3つに分かれている。

さすがにここまで来る日本人はほとんどおらず、Technics 関係以外の日本人は見かけなかった。このハイエンド市場は小さなコミュニティで、互いに顔見知り。メーカー、ディストリビュータ、小売の垣根を越えて繋がりがあっている。一人と話をすると、次から次へと紹介され輪が広がっていく事が実感できた。

Sheraton のロビーの一角では、スウェーデン地場のインディペンデント音楽レーベルで高音質 SA-CD を多くリリースしている Opus3 が即売コーナーを構え、11.2MDS D 収録のディスクやアナログレコード等を展示販売していた。ここにもまだマニア向け SA-CD 市場がある模様。

Opus3 のオーナーの Jan Eric さんは 1970 年代、当社の現地法人で Technics を担当していたとの事。その後レコーディングエンジニアを経て Opus3 を立ち上げた地元で “Legend” と呼ばれている有名人。

私に向かって熱く昔話をしていたのが印象的。

アーティストのポスターも商材としてまだ存在している模様で、ここにも常に人だかりがしていた。



スウェーデンで最有力オーディオ誌 Hi-Fi&Music の展示コーナー。バックナンバーを揃えて展示していた。

1970 年創刊の月刊誌で 59Sk/冊。80 頁ほどで、オールカラー。

2012 年からは EISA(European Image and Sound Association) メンバーでもあり、Editor-in-chief の Jonas Bryngelsson は欧州のライターでは有名な人で、CES や IFA でも必ず見かける。

過去何度か新生 Technics を特集してくれており、最近では SL-1200G を取り上げてくれていた。

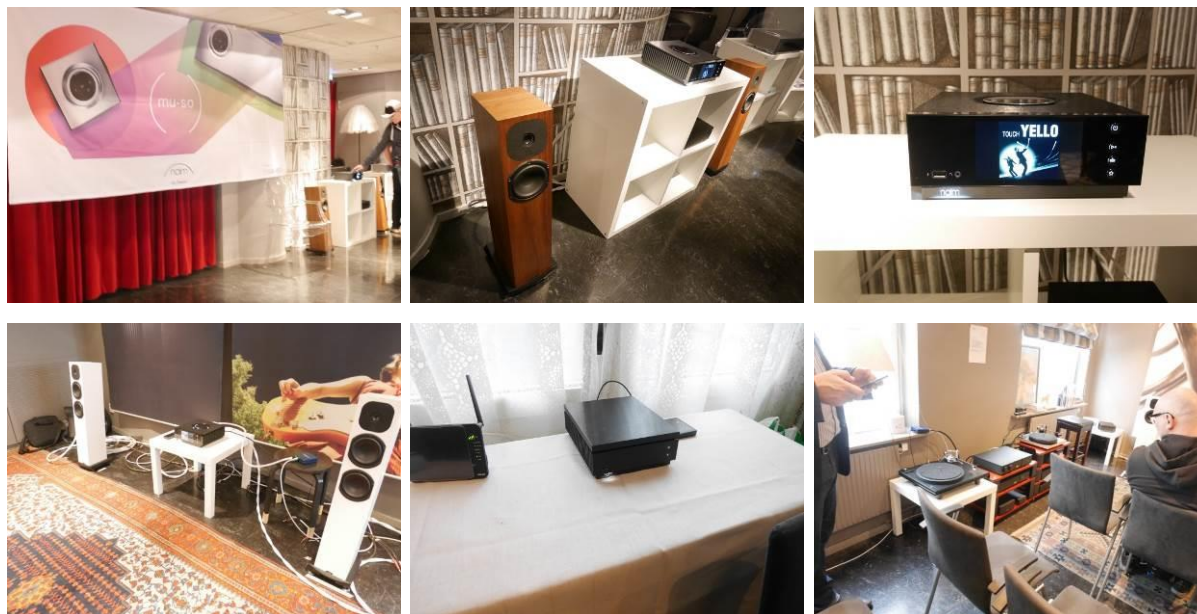


以下、各社ブース紹介

前述した様に、メーカーブースと、ディーラー・ディストリビュータが出展しているブースが混在しており少々わかり辛い。主にメーカー名でラベル付けをしてみた。

■naim

他の欧州の展示会同様、ここでも naim の存在感は大きい。ホテルのラウンジの様な準オープンスペースと試聴室両方を使って UnitiATOM をデモ。スピーカも naim 製。



■Meridian, Arcam, AudioVector

恐らく地元有力ディストリビュータのブースと思われる。ARCAMはAV-Rを持ち込んでいた。HEM 唯一の AV-R デモ（だと思う。）AudioVector は日本ではあまり見かけないがデンマークのブランド。Meridian は、ULTRA DAC 新パワーアンプ 857 をデモ



■Vivid Audio, Devialet, TechDAS

ここも高級ブランドを手がける地元の有力ディストリビュータのブースと思われる。国内でも同様だが、高級ブランドのブースはゆったりしていて、入るのに敷居が高いオーラを出している。



Technics より大きな部屋でゆったりと。人も少なめで、早くも AirForce3 がデモで使われていた。

■KEF, QUAD, REGA

英国系ディストリビュータと思われる。QUAD プリアンプ CPA5000、モノアンプ SPM-1400 MK2、LS50 のカラバリ（Wireless は無かった） REGA のプレーヤ群、アンプ群などが展示されていた。



Tannoy、B&W、Harves、ATC、Rodgers といった欧州のどこの展示会でも見かける英国系老舗スピーカメーカーの展示がなかったのが印象的。ディストリビュータの問題かもしれないが、北欧と一部ドイツブランドが人気を得ている模様。

■ Project, Ortfon

共に老舗だが、小さな部屋なので数名で満杯に。Essential 3 George Harrison バージョン? RPM9Carbon/Signature10/The Classic、Stream-BOX、AMP-BOXなどを展示。



最近、アナログの復権は世界的なトレンドであるが、他のショーに比べアナログ展示の割合は少ないと感じた。

■ Burmesatr, EAT, Vienna Acoustic, AVM

多分このおじさんは地元では有名な人と思われ、多くの人が熱心に話を聞いていた。HiFiConsult というディーラーで、大きなブースを構え、Burmester, EAT, Vienna Acoustic, AVMなどを聞かせていた。



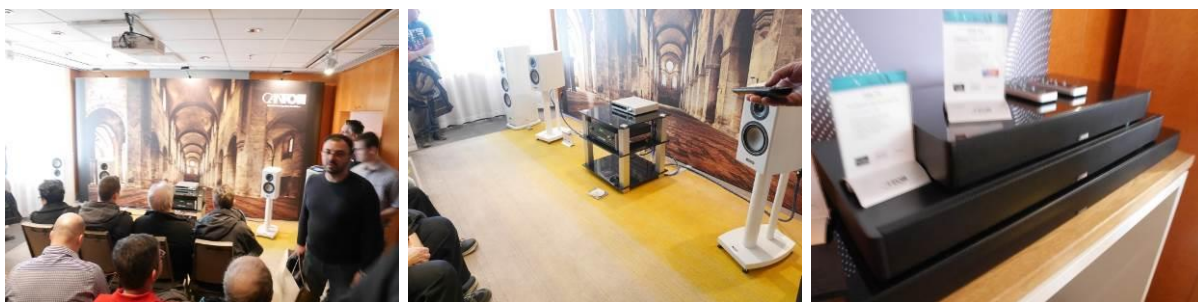
■ Dynaudio

デンマークのスピーカメーカー主催のブース。XEO や Contour シリーズをデモ、埋め込みスピーカの展示も。



■ CANTON

ドイツのスピーカメーカー主催のブース。ラインアップ中堅の ChronoSL シリーズを切り替えて聴かせていた。ブース後ろにはサウンドバーも展示



■ audio-technica

ブースではなくロビーに展示、新 VM シリーズはバックドロップのみで実物展示なし。ヘッドホン、ターンテーブルを展示し、実際にユーザーに体験させていた。



■ tonar, FURUTECH

tonar はナガオカのディストリビュータ。各地で見かける。交換針や、アクセサリを展示。



■ HEGEL

日本でも有名な HEGEL。名前の語感からドイツと思われる方も多いかもしれないがノルウェー、オスロに本社を置く。地元では存在感も大きく、大きなシェアを持っている模様。広い会議室を使ってゆったりとラインアップを並べていた。新製品のネットワークプレーヤ付きアンプ Röst など进行展示。音デモは KEF の Brade2 と LS50 で。



■ GATO Audio

AMP 類は日本にも入っているデンマークのメーカー。比較的新しい会社でデザインがユニーク。

ソナスファベールの様なデザインのスピーカも展示していたが、こちらは日本では見かけない。



■ bml

国内であまりお目にかかる事がないドイツのハイエンド bml（ロゴの最後は i でなく L の小文字）だが欧州の展示会では結構大きなブースを構えている。デザインが特徴的な無指向性のスピーカーは、特に奥行き方向の表現が独特でいつも感心させられる。STROMTANK のクリーン電源を使用し、ソースは DELA の NAS（こちらでは Merco ブランド）。



■ JBL , MarkLevinson

世界的には有名なハーマンも、こちらではマイナーな模様。小さなブースで窮屈そうにデモ。



■ avantgarde

国内やミュンヘンだと、いつも大きな部屋でデモしているが、こちらもハーマン同様にディストリビュータの力のせいか、とても狭い部屋のデモで少々かわいそうであった。Zero-TEIL AKTIV、DUO XD をデモ。



■ Q Acoustic, ARCAM, QED

Q Acoustic は新進の英国スピーカメーカー、国内でも最近みかけるリーズナブルな価格帯のスピーカで人気が出てきており、欧州のショーでも最近良く見かけるようになった。

CONCEPT500 をメインデモ。

QED は英国のケーブルメーカーで、Q Acoustics 社の日本向け機種には内部配線材が同社のものが使われている。



■ Wilson Audio

高級スピーカシステムで有名な Wilson。Sasha Series-2 をフランス製の真空管アンプ Prana にて。ここも知名度の割には小さな部屋で少々窮屈そうであった。珍しくデモソースはアナログのみだが、SL-1200G が使われていた！独自のインシュレータに載せて。



■ DIAPSON

イタリアの SP メーカーで小型のものは国内導入されているが、この大きなのは初めて見た。

表面が銅張りされているみたいな色で存在感は抜群。



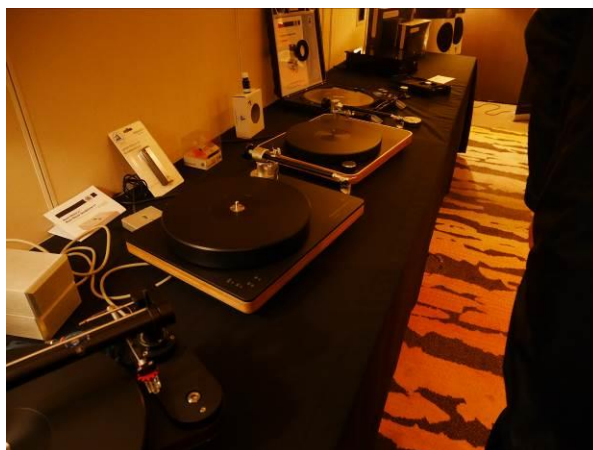
■ MARTEN

同社もスウェーデンのスピーカーメーカーで、最近日本でも Coltrane3 というフロア型が導入されている。ここではその下のラインになる Mingus Quintet を鳴らしていた。セラミック振動板を使ったユニットが特徴で、地元では小型スピーカも展開している。



■ dCS、ClearAudio Focal、IsoTeck

メイン会場である Sheraton の1階、受付すぐの会議室を占有。一番いい場所なので、恐らく地元でも有力なディストリビュータのブースと思われる。



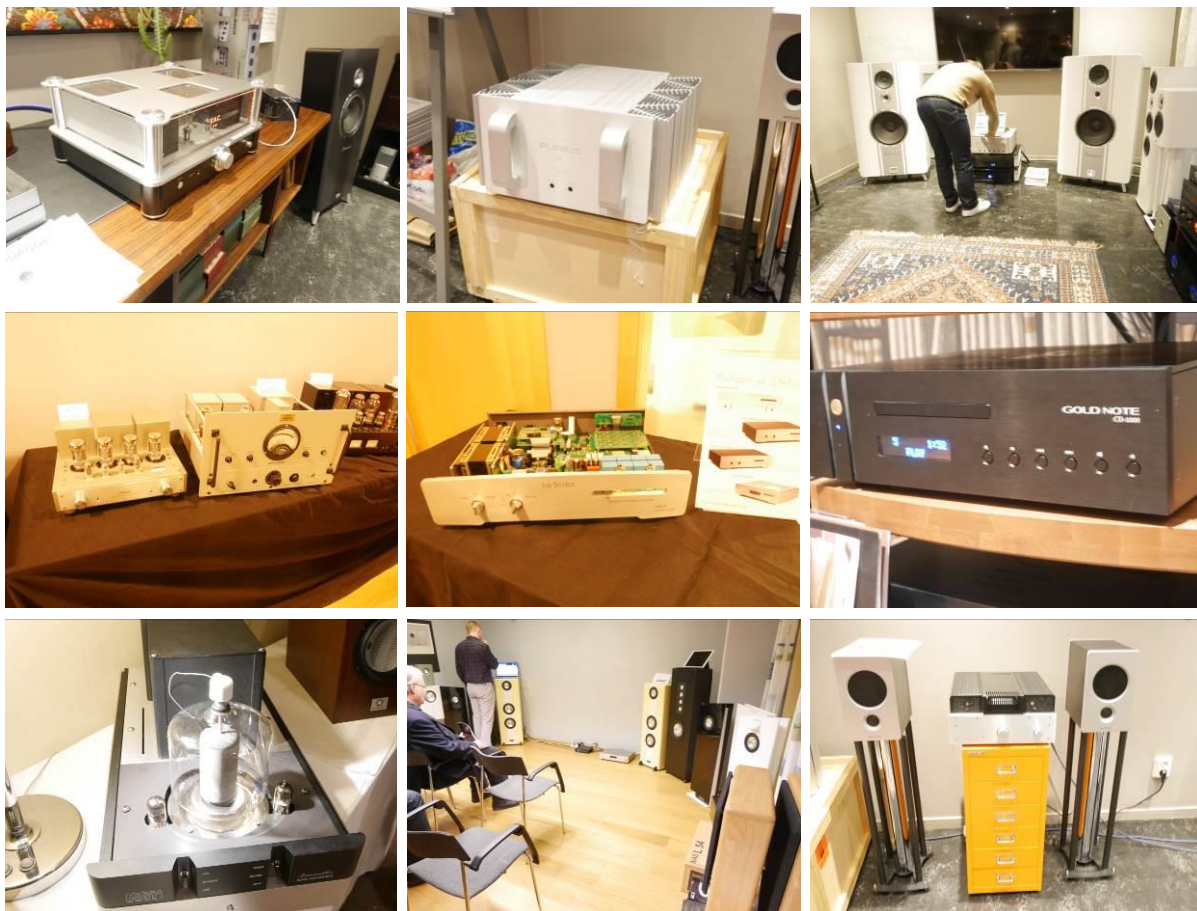
IsoTeck は同社のパワーコンディショナーEVO3 SIGMAS をデモ。実際に繋げて音の変化を聴かせていた。

右図は、PASS の新インテグレートッドアンプ INT-250 (国内未発売) の上に dCS の Vivaldi - DAC と CLOCK、aria のサーバー。

棚の上には日本でもお馴染みの Lyn Stanley さんの SACD。



■他にも、聴いたことが無いようなメーカーも多数あったが、キリがないので割愛します。



【最後に】

■ Technics

地元有力ディーラー（LASSES HiFi の Lars-Erik Anderson 氏）のサポートにて立ち上げたとの事で、ディーラー色が強く出されていた。特徴的なのは最近日本にも導入されている Entreq 社のグランドボックス（仮想アース装置）を多用している事。専用ケーブルで、各機器の電源ケーブルやラインケーブルの外皮グラウンドがグランドボックスに繋がれ、同社製ラックも棚板内にアース板が仕込まれていてグランドボックスに接続されている。



ずっと流しっぱなしのデモで、お客様は入れ替わり立ち代り・・・。長く居座る人や土日両日来られていた方も散見された。



ST-G30 に蓄えられたハイレゾ楽曲を R1 と、SU-G30+SB-G90 切り替え再生。アナログは SL-1200G に Ortfon2M・Black、EAR-834P（フォノイコ）経由で R1 に接続。上記チューンのせいか、非常に淡麗で、きつさの無い北欧調の音に仕上がっており、ディーラーの力が伺えた。恐らく部屋の特徴など熟知していると思われる。

社内事情だが、CES、IFA は Panasonic 日本本社の管轄で開催されるので、この両ショーでの Technics ブース設営運営は日本のスタッフが行う。我々が出張し、設営から音チューンまで責任を持って行うが、それ以外のショーへの参加は各国を管轄する販売会社に任される。従って、ブリストル、ミュンヘンなどではそれぞれの国の販売会社に所属する Technics 専任スタッフが試聴室を立ち上げ音チューンを行っている。各国の展示会を見学すると、同じ Technics でもそれぞれの国柄が音に出ていて、我々が持っているそれぞれの国の音のイメージになっているのが面白い。

Technics セミナー

メインの Sheraton から徒歩で 10 分ほど離れたサブ会場 Lundqvist&Lindqvist の会議室では、時間を区切って、各メーカーのセミナーが開催されていた。Technics は土曜日の 14:30-15:00 で新製品セミナーを実施。パナソニックヨーロッパの Technics 専任担当がプレゼンを行った。

20 名ほどの一般来場者が参加。過去 Technics は北欧も重要な市場と位置づけ積極的に展開していた事もあり、未だにファンも多く、終了後も何人か熱心に質問していた人がいた。



【おまけ】

ストックホルムは市街地から北東にあるアーランダ国際空港が玄関で、日本からの直行便はなく、ドイツ、フランスなどからの乗り継ぎとなる。

通貨はスウェーデンクローナ(Sk)で、1Sk=12.5円程度。街中ではユーロが通用しないのでSkを準備する事になるが日本の空港の両替では扱っていない場合が多く、かつホテルではレートが悪いと言うので、私は空港の両替でユーロから両替をした。ちなみに残ったクローナは、帰国時にコインまで含めて空港で再両替してくれた。



空港から市内への移動は普通タクシーを使う事が多いが、タクシーが結構危険で、法外な値段を吹きかけられる（いわゆるボウられる）危険性が高いと聞き、移動は電車とした。空港から、ストックホルム中央駅まで ArlandaExpress というノントップの電車で 20 分、片道 280Kr。日中は 15 分毎に運行されており非常に便利。多くの旅行客が利用している模様だ。

駅も電車も清潔に保たれており、丁度 Heathrow Express の様な雰囲気。大きなスーツケースを収納する棚も確保されており、移動中に身や荷物に危険を感じる事もなかった。

チケットは駅の自販機で購入でき、英語表記もあるので迷うことはない。



■ 著者プロフィール



1980 年松下電器産業（現パナソニック）株式会社入社。
CD プレーヤ、レーザーディスクプレーヤ、DVD プレーヤ、
BD レコーダ等の商品開発を経て現職。

現職：パナソニック(株)、アプライアンス社、
ホームエンターテインメント事業部、
テクニクス事業推進室、CTO/チーフエンジニア。